眠音（ねおん）

季刊［Neon］Vol.47　2018 Autumn

呼吸する、暮らし

眠音（ねおん）

Vol.47
季刊［Neon］
2018 Autumn

撮影／藤森祐治

CONTENTS

巻頭　目次

02　特集　呼吸する、住まい

08　『石田屋』が提案する呼吸する寝具

10　眠音コラム　呼吸する肌

11　【ねおんの視点】古書店　高橋麻帆書店

14　「お誂え」と「着付け」
京都・鷹峯『夢訪庵』桝蔵順彦
×
きもの文化研究家　田中美咲

18　ワインショップ『クラ印』で聞いた「自然派ワイン」の奥深い世界

22　真木テキスタイルスタジオ展
秋のギャッベ展

24　編集後記

巻末　石田屋イベントスケジュール

— 特集 —

呼吸する、住まい

［撮影協力］沢野建設工房

集成材を限りなく使わずにシックハウスを軽減。用いる無垢材は自社で2年間以上管理し、風土や気候に馴染ませて使用するなど、施主がいつまでも愛着の持てる本物の家づくりにこだわる、かほく市の住宅会社。 http://www.sawano-kk.com/

高気密高断熱住宅の弊害

日本の住宅の平均寿命は30年、設備機器の交換は10年、リフォームは15年が目安といわれています。もちろん、そんな会社ばかりではありませんが、ハウスメーカーが利益を最大化していくためには、より多くの住宅を販売しなければならず、それには建て替えのサイクルを短くするのも一つの手法。寿命の短い住宅を売れば売るほど利益があがる仕組みになっていることは否めません。

そうした売上利益第一主義の弊害は、住宅に使われている建材にも現われており、木材といっても、廉価で加工しやすいことから、木目を印刷した化粧シートを張ったものや、合板の上に超薄型の木を張ったものなど、本物の木ではない新建材を用いた住宅が多く見受けられます。

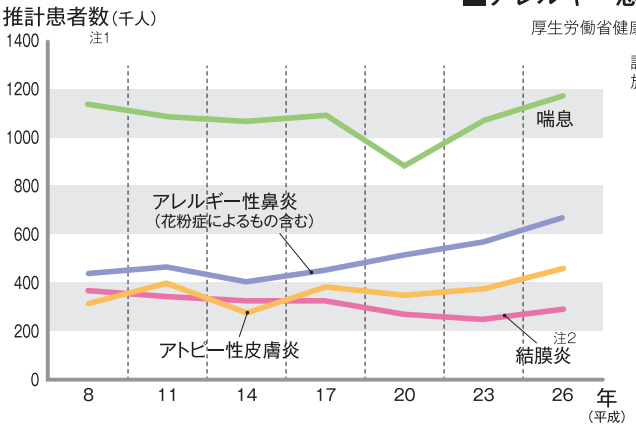
それらの木（といっても偽物）は呼吸することができません。現代の高気密高断熱住宅は、ヒートショックを予防するという点では効果があったものの、木ではない新建材やビニールクロスや接着剤などを安易に使った結果、それらから放出される化学物質が、シックハウス、ぜんそく、アトピーなど住宅に起因する様々な病気を巻き起こしています。

高気密高断熱住宅は、例えるなら、ビニールの下着を身につけているようなもの。蒸れて気持ちが悪いどころか、やがて病気になってしまいます。私たちの皮膚は、下着や洋服を通し、熱や汗の吸収と放出を行っているから健康でいられるのです。自然の法則に合わない住宅は、自覚の有無に関係なく、私たちの身体に害を及ぼすということをしっかりと認識しておく必要があります。

■アレルギー患者推計患者数の年次推移

厚生労働省健康局がん・疾病対策課（2018.2.3）資料より

調査の時期：10 月中旬の 3 日間のうち医療施設ごとに定める日において実施（定点調査）



注1）推計患者数：患者調査において、調査日現在、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設を受療していない者も含む）の数を、算式により推計したもの。
注2）結膜炎：非アレルギー性の結膜炎患者を含む。

無垢材が健康に良い理由

それから、もう一つ、シックハウスやアレルギーの原因となっているものに住まいの過乾燥があります。昔の日本家屋は、結露やカビなど湿気に悩まされていたために、水蒸気は厄介者と考えられることが多く、また、現在の建築基準法では、シックハウスへの対処として24時間換気を義務付けているために、暖房時に乾燥しすぎるという問題が生じています。過乾燥はアレルギーの症状をより悪化させてしまうのです。

その改善のため、「アレルギーと住宅を考える会」の東日本事務局を運営している「川田建築設計事務所」（山形県酒田市）の川田季彦さんが提唱されているのが「深呼吸する家」です。自然の法則に則った、自然な快適さを追求することで行きついた、天然素材を使った透湿高気密高断熱工法。水蒸気が家の内外を自然に通過することで、湿度を自然な状態にするだけなく、住まい全体の温度と湿度を均一な状態に保つ役割も担っているのです。

近年、シックハウスが社会問題化し、無垢材が見直されていますが、健康や環境を考えると、なぜ自然な天然乾燥材が最適なのでしょうか。一般に公共工事では、木の収縮変形を避けるため、含水率15％以下の木材を使用しますが、そうした人工乾燥材は強制的に高温乾燥を行うので、木の細胞膜が変化し、木の良さを殺してしまうのです。一方で、ゆっくりと時間をかけて乾燥させる天然乾燥材は、粘り強く強度があり、色艶・香りが良く、調湿機能もあるなど様々なメリットがあり、それは木本来の特長や強みを生かすということにもつながっているのです。

病気の原因		「一般的な高気密住宅」対症療法	「深呼吸する家」原因療法
化学物質	➡	24時間換気	天然素材
過乾燥	➡	加湿器	透湿工法
ハウスダスト	➡	空気清浄機	自然の浄化作用

身体を癒す快適な住まい

洋風建築には、その根底に、自然と対立し、征服しようという考えがありますが、私たち日本人は古くから自然と共生してきました。「循環」という自然の法則に則って暮らし、自然の力を生かし、自然と調和した住まいを造ってきたのです。

「循環」とは「人間活動によって排出される汚染物質量が、大気、水、土、生物などで構成される自然処理システムを超えないこと」をいい、そうした物質とエネルギーが循環する暮らしの中では「建築構成材がすべて土に還ること」が住まいの理想となります。人は自然から生まれたのだから、その細胞や遺伝子が、天然素材と共鳴し、それを「快適さ」と感じることは自明の理です。

住宅は本来、疲れた身体を癒す場所。自然素材100%の「深呼吸する家」は、自然とつながることで、自然治癒力が高まり、健康な身体を維持することにも効果があります。中でも住宅を造る上で、最も重要な場所は「寝室」。人間が長い時間を過ごす寝室を天然素材で造ることにより、副交感神経が正常に機能し、睡眠が深まり、疲労回復が早くなると言われています。寝室が健康に大きな影響を与えることは説明するまでもなく、となれば当然、寝具も大切となります。ストレスが病気を引き起こし、快適さ、即ち、環境が私たちの健康をつくってくれると考えるなら、その基盤となる住まいが果たす役割は、極めて重要なものです。

住まいは暮らしに、暮らしは健康に直結します。より良い人生を送るためにも、今一度、住まいに思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。

[参考文献]

プロでも知らない家づくりの法則 Vol.4 豊かさの創造
「子供たちに伝えたい家づくり 星に愛された家Ⅱ」
川田季彦 著

プロでも知らない家づくりの法則 Vol.5 未来への伝言
「子供たちに伝えたい家づくり 歴史が教えてくれた家」
川田季彦 著

「アレルギーと住宅を考える会」

アレルギーと住宅に関する正しい知識を伝える活動を行う会。アレルギーで苦しむ人々を元気にすること、乳幼児におけるアレルギー体質の予防を目的にしており、全国20県30支部、2部門、2事務局がある。(株)石田屋は、その石川·金沢支部でもある。
http://www.kenchiku.gr.jp/allergy.html

『石田屋』が提案する

呼吸する寝具

睡眠は身体のメンテナンスには欠かせないもの。人は眠ることで心身の疲れを癒し、免疫力を高め、様々な機能を回復しています。中でも、脳の疲労は、睡眠でしか回復することができないといわれています。充分な睡眠を取らなければ、判断力や理解力、集中力といった脳の機能が低下するのはこのためです。

睡眠中の寝具の中の温度と湿度のことを「寝床内気候（しんしょうないきこう）」といいます。眠るために適した「寝床内温度」は、33度前後で、体温より少し低いくらい。また、「寝床内湿度」は50%程度がぐっすりと深い睡眠をとりやすいといわれています。

人の身体は、体温を下げるために発汗し、体温が下がってから眠りに入ります。寝具に入って1番最初の眠りが最も深く、一晩の睡眠で、数回にわたり眠りの深さは波形を描き

理想的な睡眠環境の作り方

湿度

寝室の湿度は50~60%が理想的といわれ、夏は高め、冬は低めが目安です。湿度があがりすぎると汗が皮膚から蒸発できず、べたつき体温が下がりません。また、空気が流れないと湿気がたまりやすく、快適な湿度環境につながりません。

温度

室温は26℃前後、冬は15℃以上が適切な温度。しかし、きちんとした寝具を使っていれば、寝室の温度が多少低くても睡眠には影響がないといわれています。エアコンの風は直接身体に当たらないよう注意してください。

窓

朝は太陽の光を浴びることで体内時計がリセットされ、すっきりとした目覚めにつながるため、気持ちのよい朝日が入ることが大切です。

『石田屋』の布団はすべて「呼吸する」寝具。汗を吸収·放出する最高の天然素材を使用している。

ますが、深くなるノンレム睡眠時には常に発汗を伴うのです。

汗をかくと、寝床内の湿度は急激に上がります。その際、ポリエステルなど化学繊維を使った寝具は湿度のコントロールはできず、たちまち蒸れてしまい、湿気と体温の調節がうまくいかないために、次の眠りの波のために体温を下げることができません。つまり、最終的には、不快感で眠りは浅くなり、睡眠の質は悪くなってしまうのです。

汗をかけばすぐに寝床から湿度を逃がし、体温が下がったのちは適度に保温する。一晩中続く、寝床の中の温度と湿度の上下に柔軟に対応するのが天然素材。

季節と目的に合った天然素材を選ぶことで、常に快適を保ち、眠りの質が良くなります。また、日中に酷使した身体や脳の疲れを癒し、免疫力を高め、さらには、寝る人の体つきに合せて柔軟に形を変え、適度な弾力で寝返りを助けてくれます。身体の凸凹にぴったりと合い、呼吸する。天然素材の寝具を選ぶことが大切なのは、そういった理由があるからなのです。

脳を刺激するテレビや携帯電話などは控え、リラックスすることも安眠には欠かせない。

壁

「珪藻土（けいそうど）」など、吸湿できる天然素材がおすすめ。珪藻土は天然でできており有害な物質を含まない、いわゆる「健康壁」として定着してきています。珪藻土でなくても、クロスなどで壁の呼吸を妨げないようにしたいものです。

ベッド

金属をできるだけ使用していない、吸湿できる天然素材の「すのこベッド」が良いです。近年の畳ベッドには、内部に発泡剤を使用しているものが多く、湿気がたまりやすくカビの原因となるので不向きといえます。床に密着したベッドはほこりがたまり、掃除機も入らないため不衛生です。

床

起きて足をつけた時に冷たいなど、急激な温度変化は血圧の上昇を引き起こします。そのため、温もりのある天然木の床材を選ぶことや、室内の熱を逃さないよう床下を断熱するなどの工夫が必要です。

掛け敷き布団

羊毛、麻、絹、綿、羽毛といった「素材」、また、厚みも何種類かを用意して、季節や部屋の環境に合わせて使い分けましょう。

［眠音コラム］

呼吸する肌

～皮膚呼吸を優しく助ける基礎化粧品～

洗顔、化粧水、乳液、美容液、保湿クリームにオイル、そして、日焼け止め。日差しや空調、メイクといった外からのストレスを落とし、癒すために、女性の肌は忙しい。特に洗顔料には気を配りたいもの。皮膚表面の汚れを落とすための強い洗浄力は、汚れと一緒に、肌のバリア機能をもつ大切な皮脂膜、皮膚常在菌まで剥がし取ってしまいます。バリアをなくした肌は、とても敏感。乾燥やアレルゲンの侵入により、肌トラブルが増えてしまいます。

また、乾燥を防ぐ保湿･保護剤には、鉱物油、石油系界面活性剤、香料といったものが含まれていて、肌の弱い方や赤ちゃん、年配の方の肌には、大きな負担がかかってしまいます。性別や年齢を問わず、健やかな肌は、美容･心の健康はもちろん、睡眠の質にも影響を及ぼします。

スキンバリアという考えに基づき、洗浄と同時に皮脂膜を補い強化する洗浄料は、家族全員で安心して使えます。洗浄泡は肌にしばらく残し、泡パック。他のソープとは異なり、あとはさっとすすぐだけ。洗い流しすぎないことが大切で、保護膜を守ると同時に保湿され、肌は若々しさを保ちます。

洗浄機能と保湿クリーム機能を兼ね備えたソープは、皮脂膜を鍛え、スキンバリア機能を強化して、アレルギーをやわらげます。

ひとの身体に優しく、皮膚呼吸を妨げないで、肌本来がもつ力を目覚めさせる。そして、ひとの身体に優しいものは当然、環境にも優しい。

浴室の中は、シャンプーの他に家族でソープ1本、洗面台の棚はエモール。いたってシンプル。スッキリ整うから浴室や洗面台のお掃除も簡単。これもうれしいですね。

右から、RIMエモール（47g 2,500円）、RIMソープ（350g 3,500円）、
RIM 超分子スキンケア化粧品「RIMソープ･RIMエモール」
問合せ／『gamadan／ガマダン』✆076-298-4800

【ねおんの視点】

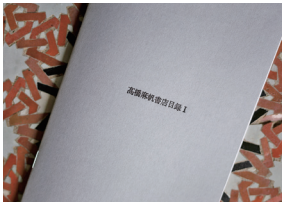
古書店

高橋麻帆書店

ものとしての圧倒的な存在感と、
美しさの宿る「古書」に出会う。

書店といっても店舗がなく、サイトに目録を載せたり、ショップやギャラリーで展示会を開いたりして古書を販売している『高橋麻帆書店』。ドイツやオーストリアを中心とする西洋の文化と、それらに関連する古書籍、文学や哲学、芸術などの古書や雑誌をはじめ、エフェメラ（しばしば収集の対象となるカードや手紙やパンフレットなどの印刷物）や零葉（一冊の本としてではなくばらばらのページが紙一枚の状態で流通しているもの）なども取り扱う、とてもユニークな本屋さんです。

金沢在住の店主・高橋麻帆さんは、元々京都生まれで、詩人リルケに魅せられて文学の道へと進み、京都大学の大学院を経て博士号を取得したドイツ文学の研究者。結婚後、夫の仕事の関係で一旦金沢にて暮らし始



Maho Takahashi
Antiquarian Books
金沢市本多町3-7-21-405（予約制）
076-256-0401
http://takahashimahoshoten.info

a

b

a.ドイツの本には、ものとしてだけではなく、内容にも合致した美しさがあるという。
b.書籍のほか、ビジュアル的に目を引く雑誌も取り扱う。写真はフランスのヴィンテージ雑誌『le témoin』。

店主の髙橋麻帆さん。専門はドイツ文学の研究者·博士でありながら、骨董屋さんでのアルバイト、茶道や書道もかじりつつ、2015年に古書籍商として開業した。

めたものの、転勤で東京へ。そこで古書の奥深い世界への扉を開けてくれたのが、アルバイトで通った神保町だったといいます。

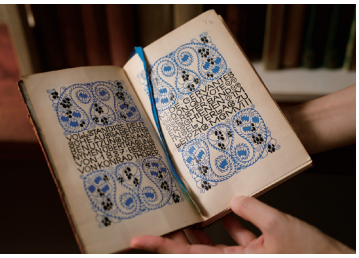
「初日からいきなり16世紀の本を持ってこられて。それをボンと目の前に積み上げられて、このデータをとってくださいと。その古さと希少価値から考えると一冊で数百万、下手をすると一千万…。そんな本がごろごろ転がっているんですよ」

働いたのは、世界一の古本街・神保町でも、品揃えに一目置かれる『田村書店 洋書部』。そこで、タイトルや著者や出版年、また、その本がどのように扱われ、どのようなことが書かれているかを誰でもわかるように要約する「目録」作りのイロハを徹底的に学んだといいます。

そして、もう一つ、古書にのめり込むきっかけとなったのが、「もの」としての本の魅力を知ったこと。

「ウィーン世紀末に発行された有名な雑誌に『ヴェル・サクルム』という雑誌があるんですけど、当時の芸術家とかデザイナーが意欲的に作品を発表するような総合芸術的な雑誌で、恐らく世界で初めて、かたちが真四角なんです。それがビジュアル的にすごくカッコ良くて」

c



c.グーテンベルクが活版印刷を発明して間もない15～16世紀の書物の「零葉」。インテリアとしても人気。d.さりげなく挿入される挿絵は、どれもアートの域に達しているものばかり。e.植物の図版なども取り扱っている。

d

e

内容よりも装幀。読むためではなく、眺めるための本もある。それまで、文学の研究者として「中身があってこそ」と思っていた高橋さんにとって、それはとても衝撃的な事実であり、体験だったそうです。

以来、知れば知るほど古書の世界に魅せられ、遂には、自らも仕事として本を仲介するようになって3年目。中身はもちろん「装幀も綺麗だなって感じる人に買ってほしい」と願う彼女が選ぶ本は、翻訳本も含め、その一つひとつに圧倒的な存在感があり、ものとして芯の通った美しさが宿っているものばかりです。生まれてから何百年という時を経て、今まで伝わってきたその歴史と物語に思いを馳せながら、お気に入りの一冊を見つける贅沢を、ぜひ一度、味わってみてはいかがでしょうか。

古書店 髙橋麻帆書店の世界

開催日時／10月20日（金）～11月2日（金）
会場／『gamadan／ガマダン』金沢市高尾3-4-1

<関連イベント>

夢二が憧れた西洋

19世紀末から20世紀初頭の美しい歌謡と美しい本

出演／東朝子（ソプラノ）、武田雅代（ピアノ）、髙橋麻帆（展示・お話）
開催日時／10月26日（土）
11:30～12:30ランチ、12:30～演奏とお話
会場／『gamadan／ガマダン』金沢市高尾3-4-1

「お誂え」と「着付け」

田中美咲さんが誂えた
『夢訪庵』の帯。

京都・鷹峯『夢訪庵』
桝蔵順彦
×
きもの文化研究家
田中美咲

脈々と受け継がれた技で、唯一無二の要望に応える。

桝蔵順彦さんは、日本やアジア地域の草木や蚕を原料に、伝統的な西陣織の技法によって、帯や着物、ファブリックなどを織り上げる京都・鷹峯の工房『夢訪庵』を主宰する織物作家。高度経済成長期、昭和30年頃から急速に進んだ機械化の波に呑まれることなく、極端に言えば、700年、1000年と、西陣という場所で培われてきた、戦前のまま

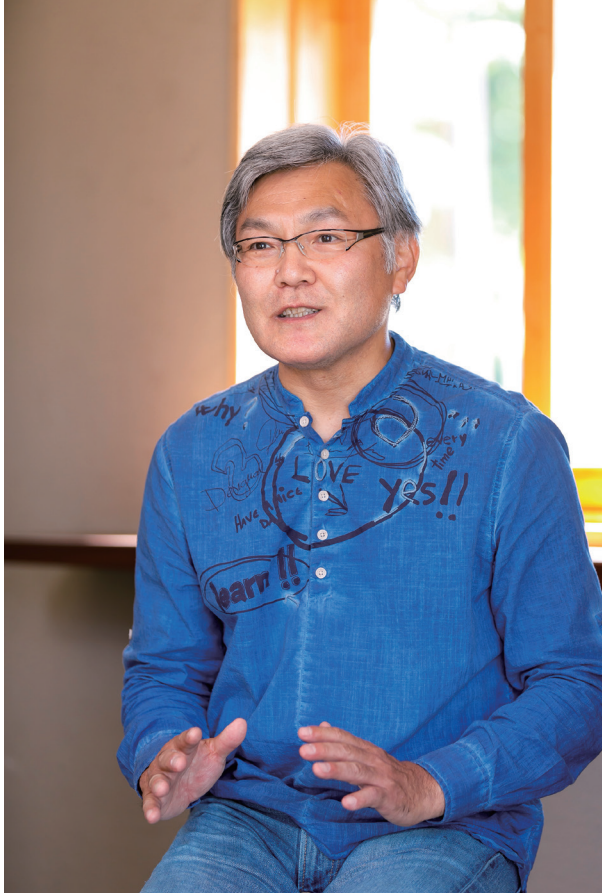
の、アナログのままの、手機によるものづくりに携わり、曰く、自分たちのことを「西陣の最後の手機屋の生き残り」と表現されます。

その帯はいわゆる従来の西陣織のイメージの枠に収まらないモダンなものばかりですが、それを支えているのは、古の職人たちが開発し、長い歴史の中で脈々と受け継がれてきた超絶的な技法と、そして、忘れてならないのが「お客様の要望」であると桝蔵さんはいいます。

「お客様から頂戴するお題が糧となり、僕自身では生み出せないものを生み出すことができる。お客様が欲しいと思っていらっしゃる、こんなのがあったらいいなというものをかたちにするのが僕の命です」

例えば、帯のデザインの基となる図録にしても、古典から現代のものまで、毎日いろんなものに目を通してはいるけれど、お客さんが「素敵」といわれるものには、自分では決して発見できない「気づき」があるそうで、そうやって生み出された図案は現在2150を超えます。

多くのニーズではなく、一人のウォンツをかたちに。桝蔵さんの真摯な仕事には、和のクチュールである「お誂え」の真髄が表れています。



ますくらゆきひこ／工房『夢訪庵』代表。天然素材と、京都・西陣に古くから伝わる手機にこだわり、帯や着物やファブリックなどの創作活動に携わる。その豊かな作風で多くのメディアから注目を集める織物作家。

デザインのモチーフは和洋を問わず多彩に選ばれるが、どの作品にも天然素材のやさしい色合いと西陣織の門外不出の超絶的な技巧が活かされている。

着物や着付けを通して、日本人の美しさを伝える。

そして、着付けからスタイリングまで、様々な活動を通してその魅力を発信しているのが着物のコーディネーターの田中美咲さんです。ファッションを学び、京都のサロンで働いていた際に着物との接点が生まれ、その後、呉服屋で勤めていた際に出会った、きもの文化研究家でエッセイストでもある中谷比佐子さんに師事。以来、その薫陶を受けながら、精神を受け継ぎ、天然素材の下着やひもを使って補正をせず、着心地と健康を考慮した日本古来の着付けの復興に尽力されています。

それを象徴するのが、古来から日本にあった肌着をオリジナルで開発した「湯文字」。裾さばきや通気性が良いだけでなく、身体を冷えから守ったり、お腹とお尻を引き締めて骨盤にかかる負担を軽くしたり、日常に着物を取り入れることで、身体を整えることにも役立ちます。

「着物は昔から、母親が古い自分の着物を解いて子どもの着物を作ったり、お布団にしたり。絹でできたもの、つまり、お蚕さんの命を、決して無駄にしなかったんですね。針を持つことや、ものを大切にすること、そういう日本人が大切にしてきたことも着付けを通じてお伝えしたい。それから、人が見ていないところで、いかに美しく大切なものを触ったり、ひもを結んだりできるのかという女性らしい仕草なども」

本物の美しさとは内面から滲み出てくるもの。身につけることで、自然と言葉遣いや仕草が美しくなり、

桝蔵さんと田中さんは旧知の仲。二人の着物に対する愛情と将来への思いは尽きることがありません。

内面も磨かれていく。着物にはそんな不思議な力もあるといいます。

この秋、こだわりのライフスタイルの提案を行う『ガマダン』にて、着物屋や問屋がセレクトしたものではなく、『夢訪庵』の新作を、桝蔵順彦さん自身が披露し、田中美咲さんが着物のコーディネートや帯オーダーの見立てを行うイベントが開かれます。この着物業界にとって革新的な企画をぜひお見逃しなく。

田中美咲さんがその復興に力を注いでいるのが、二幅の布を合わせて作られるオリジナルな和の下着「湯文字」。洋服のガードルとパンティの機能をあわせ持ったもので、すべて100%の天然素材を用いて作られています。身に付けると、冷えから身体を守るだけでなく、姿勢を正し、健康的な着姿もキープできるそう。

たなかみさき／ファッションを学び、洋服から着物の世界へ。きもの研究家の中谷比佐子さんに師事。着付けのほか、スタイリング、イメージアップにいたるまで、本物の着物文化を通じて、着物を着る日本人だからこその美しさを伝える多彩な活動を行っている。

心躍る お気に入りを見つける会

開催日時／9月7日（金）～9日（日）
会場／『gamadan／ガマダン』金沢市高尾3-4-1
『夢訪庵』の新作帯の発表会と、着物のスタイリングのプロ、田中美咲さんによる初のコラボイベント。お持ちの着物に貴方らしい帯をコーディネートしたり、世界に一つだけのmy帯を作ったり。『夢訪庵』が生みだす“とっておき”を、田中美咲さんが貴方のためにお見立てします。新しい着物の世界の扉が開く、その目撃者に。

<関連イベント>

トークイベント『きものSalon』編集長 古谷尚子さんをお迎えして

出演／世界文化社『家庭画報特選 きものSalon』編集長 古谷尚子
きもの文化研究家 田中美咲
開催日時／9月8日（土）15:00開演

ワインショップ『クラ印』で聞いた

「自然派ワイン」の奥深い世界

人の手によって作られる、個性が活かされたワイン。

ワインを愛好する人が増えるに従い、そのぶどうはどう栽培され、そのワインはどう作られたかに関心を寄せる人も増えてきました。「ヴァン・ナチュール」、フランス語でヴァンはワイン、ナチュールは自然を意味します。日本では「自然派ワイン」とも呼ばれる、その奥深い世界の魅力を探りに自然派ワインの専門店『クラ印』に足を運びました。

一口に「自然派ワイン」といっても考え方は様々。同店では「文字通り〝ワインを自然に作る〟と考えていくと、ワインは、ぶどうという農作物からできるので、まずは自然に栽培されたぶどう、つまり、有機農法のぶどうから作られているという点を意識します。さらに、ワインは、ぶどうを発酵させて作られるので、醸造・発酵の過程でも、なるべく自然に仕込まれたワインという点も意識して集めるようにしています」と店主の牧秀明さんは話します。

もう少し詳しく言えば、培養酵母ではなく、ぶどうの房などに自然に存在する天然酵母の自然な発酵で仕込んでいき、その天然酵母の働きをできるだけ邪魔しないように、酸化防止剤などの添加物を用いないということ。添加物を使わないワインづくりでは、極力クリーンなぶどうを使うことが大切で、良質なぶどうを選ぶため、収穫は一つひとつ手摘みで、選果はより厳しく、丁寧な仕込みが求められます。言わば昔ながらの伝統的なワインづくりへの回帰。そうすることで、より安価に、より大量に、より同じものを作ることが必要とされる「工業製品」としてのワインではなく、その畑のぶどうの個性が際立つ「農業製品」としてのワインが生みだされるのです。

『クラ印』の店主・牧秀明さんは、北海道生まれの東京育ち。サラリーマンから転職し、ワインショップに勤務しながら修業。飲食店のマネージメントなども手がけ、7年前に妻の実家のある石川県へ。酒造メーカーで勤務した後、5年前に独立。自然派ワインの専門店『クラ印』を開く。

生き生きとした果実味と、楽しいエチケットも魅力。

「自然派ワイン」の魅力は、なんといっても、ピュアで力強く、ある意味で複雑な味わいにあります。

「ちょうど自然派ワインが日本に出始めた頃、東京のある店で飲んだ瞬間、なんじゃこりゃ！と感じたんです。今まで何を飲んできたんだろう、こんな面白いワインがあったんだと思って。生き生きした果実味というんですかね、そんなフレーバーをすごく感じるワインだなと強い衝撃を受けました」

初めて「自然派ワイン」に感動したときのことをそう語ってくれた牧さん。無添加のため、人によっては「悪酔いしない」、「頭が痛くならない」と感じることもありますが、普通のワインとの、もう一つの決定的な違いは、飲んだ後の「質感」なんだそう。曰く、色々なワインを飲み込んでいくと、やがて、口の中で感じる味わいだけでなく、飲んだ後の、なめらかで、アルコールの抵抗を感じさせない、そのナチュラルな質感に魅了されていくといいます。

そんな果実味をストレートに感じる「自然派ワイン」によく合う料理は、素材そのものの旨みを活かしたもの。意外かもしれませんが、塩や出汁でシンプルに味付けした和食などはとても相性がいいようです。

さらに、見ているだけでも楽しいのがエチケット（瓶に貼られているラベルのこと）で、それも「自然派ワイン」の文化の一つ。品種や作り方などが細かく規制され、機関によって「原産地呼称」が記された一般的なエチケットとは異なり、生産者が自分らしさを自由に表現したエチケットはまさにアート。難しいことを考えず、レコードをジャケット買いするように、エチケットの好みで「自然派ワイン」を選ぶのも一興です。

自然に寄り添う気持ちで、その「物語」を味わって。

環境に配慮して、自然の摂理にも目を向けた「自然派ワイン」は、現在、世界中から人気を集めています。とりわけ、話題のつくり手のワインなどは、多くて2000本、少なければ100本と、その生産量が限られていることから、争奪戦が繰り広げられていますが「自然派ワインをあまり仰々しく捉えたり、小さい型にハメたりしたくない」と牧さん。

「そもそも、自然なるものを、人間はどこまで完全に理解できているのか。山を見ても、空を見ても、それらは全部、色にグラデーションがかかっていると思うんですよ。濃いものもあれば、薄いものもある。透明なものがあれば、濁ったものもある。自然って、はっきり、くっきりしているわけではないですよね。なので、自然派ワインについても正解はなくて、自然と寄り添うように、ぼんやりと捉えていただいていいんじゃないかと僕は思っているんです」

同じ地方の同じワインを使ったものでも、同じつくり手が作ったものでも、その年その年で味わいは千差万別。それも「自然派ワイン」ならではの面白さです。その一本一本の「物語」に感動できる魅惑の世界に、ぜひ足を踏み入れてみてください。

ワインショップ **クラ印**

石川県野々市市粟田2-76
✆076-256-3796
営／11:00～19:00
休／木曜、第2水曜

ワインショップ『クラ印』と自然派ワインの夜

『クラ印』オーナーの牧秀明さんが選んだ、とっておきの「自然派ワイン」を、お話を聞きながら味わいます。ワインのお供は『ガマダンダイニング』のフレンチ惣菜の数々。ワイン農園を訪ねたかのようにテーブルを囲んで「自然派ワイン」をとことん楽しむ会です。

開催日時／10月12日（金）19:30開演
会場／『ガマダンダイニング』金沢市高尾3-4-1

『ガマダンダイニング』

金沢市高尾3-4-1　✆076-298-7800
営／11:00～19:00（L.O.18:00）
※コースランチはラストオーダー15:00
休／火曜
【メニュー】
昼：ランチ［コース］2,000円（ドリンク別）、他
夕：ランディナー［コース］3,000円、他
カフェメニューもあり ※価格は全て税別です。

真木テキスタイルスタジオ展

草木で染め、織り、仕上げる「秋冬布衣」が今年も。

『真木テキスタイルスタジオ』主宰

真木千秋さんからのコメント

「今年の秋も糸を草木で染め、織り、仕上げるという真木の物づくりは変わらず。モンスーンがはじまったインドでは藍染め、蘇芳（すおう）の染めもはかどり、この季節だからこそ織りやすい布もあったり…。日々に様子に合わせて仕事を決めていく。やれることをやれるように、は環境で身に付いていくことでもあると思います。そのほうがより面白いものが出来たりも。秋冬布衣、私達もどんなものができあがってくるのか楽しみにしております」

真木テキスタイルスタジオ展

開催日時／10月20日（土）～11月4日（日）11:00～19:00
会場／『石田屋 犀川店』金沢市清川町1-1
問合せ／✆076-280-4800（『石田屋 犀川店』）

遠くインドの地でタッサーシルクという野蚕の糸に出会い、魅了されたことから始まったという『真木テキスタイルスタジオ』。以来、素材や糸を求めて「世の果て」まで出かけ、そうして見つけてきた糸を、機にかけ、いろいろなサンプル織りをし、それをインドの工房に持参して、手織物をつくっています。2006年には、都心から1時間半ほど、空気も水もきれいな東京都あきる野市に築200年の古民家を改造したスタジオ「竹林の家」と直営店「竹林の店」をオープン。常設展示の他、特別展示会等、様々なイベントを開催しています。そんな「手仕事」でしか感じることのできないモノの魅力に溢れた『真木テキスタイルスタジオ』のこの秋冬の新作が『石田屋 犀川店』にやってきます。

秋のギャッベ展

家族が和む共有空間をつくってくれるギャッベの力。

『石田屋 犀川店』スタッフ
岡野徹からのコメント

「上の写真は、私が一番“こんな風にギャッベを使ってほしいな”という構図（え）。今回の眠音のテーマ“呼吸する暮らし”ともピッタリだと思います。一緒な空間にいると、皆が別々のことをしていてもたまに呼吸が合う瞬間があります。赤ちゃんが泣いたとき、「ご飯できたよ〜」のとき、大した事ないことで兄弟喧嘩が始まるとき…。一緒な空間にいると何でも共有しやすいんです」

秋のギャッベ展
開催日時／10月18日（木）〜10月22日（月）11:00〜19:00
会場／『石田屋 犀川店』金沢市清川町1-1
問合せ／✆076-280-4800（『石田屋 犀川店』）

ハンドメイドで世界に一点ずつしかない貴重なアイテム「ギャッベ」に対して、徹底的なこだわりを持っている『石田屋』。ギャッベの中でも最高品質が保たれている「ゾランヴァリ社ギャッベ」のみ取り扱いを行い、イランへは毎年訪問し、直接目で見て、手で触り、職人さんと会話して選んだ商品を入荷。ゾランヴァリギャッベは、肌触りが良い、蒸れない、汚れに強いなど、敷物としての機能性に大変優れていますが、“空間を仕切る”という使い方にも適しています。カーペットやラグに比べて厚みのあるギャッベは、敷くと若干の段差をつくってくれます。間仕切りするわけでも、リフォームするわけでもなく、1枚パッと敷くだけで和みの共有空間を作ってしまうのがギャッベなのです。

次号／
「眠音vol.48 2018 冬号」は
12月発刊予定です

〈 編集後記 〉

実りの秋。黄金色の田んぼを見ると「実るほど頭を垂れる稲穂かな」との言葉を思い出す。稲の穂は実るほどに穂先が低く下がるものです。
人間も実るほど謙虚な姿勢で人と接することが大切であり、石田屋も成長・発展すればするほど、会社の姿勢・社員の態度が謙虚に、丁重にならなければと考えます。

田中和昭

自然との繋がりや調和を大切にした「快適」か、機能性や利便性を重視した「快適」か。風の匂いの変化で季節の動きに気付くような、そんな暮らし方をしていきたいと思うのです。

八木勢津子

ここにいると居心地が良いな〜という建物があります。その逆もあります。寝具を通して全身で呼吸する心地よさを知りました。衣食住、素材の良いものを一つずつ手にしたい。

盛田まゆ

「リビングだからソファを置く」は”デザイン”ではなくて「ここで子供とゆったり座ってテレビを見たいからソファを置く」は”デザイン”。求めれば癒しや和みはデザインできる。

岡野 徹

染めに用いる草木は月の満ち欠けによって色の鮮やかさがまったく異なるとのこと。自然の理を知ることで、その理に沿って生きてきた、古の人たちの知恵に驚かされることばかりです。

愛山達也

観測史上最高の暑い夏もようやく落ち着きをみせ、少しずつ秋の風が快さを連れてやってきた。ようやく眠れる季節の到来に安堵している人も多いだろう。私はといえば、毎晩同じ眠りと目覚めがやってくる、変わらない日々を過ごしている。ただひとつ、秋は食欲を抑えることが難しくなる。気をつけねば。

田中佳美

石田屋イベントスケジュール

gamadan／ガマダン

●伊藤剛俊 器展　9月9日(日)まで

●「お誂え」と「着付け」 『夢訪庵』西陣帯オーダー受注会
9月7日(金)～9日(日)
〈関連イベント〉
トークイベント『きものSalon編集長　古谷尚子さんをお迎えして』
出演:世界文化社『家庭画報特選 きものSalon』編集長 古谷尚子
きもの文化研究家 田中美咲
9月8日(土)15:00 開演

●美人になる着付け　講師:田中美咲
9月26日(水)・10月24日(水)・11月28日(水)
午前・午後・夜の部 全6回コース

●ワインショップ『クラ印』と自然派ワインの夜
10月12日(金)19:30開演

●古書店 髙橋麻帆書店の世界
10月20日(土)～11月2日(金)
〈関連イベント〉
「夢二が憧れた西洋 19世紀末から20世紀初頭の美しい歌曲と美しい本」
10月26日(金)11:30～12:30ランチ　12:30～演奏とお話
出演:東朝子(ソプラノ)、武田雅代(ピアノ)、髙橋麻帆(展示・お話)

●芳野まいトーク&アペリティフの会
「フランスに学ぶ、大人のクラシック、ロマンティック」
講師:芳野まい(フランス文学研究者／セゾン現代美術館 主席研究員・理事)
11月11日(日)15:00開演

●gamadan LUNCH & SPECIAL 睡眠診断
11:00～15:00　一日限定1組

犀川店

●アトリエマニスの洋服展
9月1日(土)～23日(日)

●天然スキンケアグリンベル無料体験
「お試しメイク or 季節の肌ケア」
9月21日(金)・22日(土)

●デトックスエステ「老廃物を排出。体調改善」
9月21日(金)～23日(日)
10月19日(金)～21日(日)
11月16日(金)～18日(日)

●足型健康チェック
10月5日(金)～7日(日)

●ゆるふ整体
10月6日(土)・7日(日)

●秋のギャッベ展
10月18日(木)～22日(月)

●真木テキスタイルスタジオ展
10月20日(土)～11月4日(日)

和座店

●リラックスエステ「頭のコリ&脳の疲れを改善」
9月19日(水)・20日(木)

●天然スキンケアグリンベル無料体験
「お試しメイク or 季節の肌ケア」
9月20日(木)

●足型健康チェック アーチサポートインソール体験
10月5日(金)～7日(日)

ISHITAYA

gamadan／ガマダン
金沢市高尾3-4-1
076-298-4800
11:00～19:00
火曜定休

犀川店
金沢市清川町1-1
076-280-4800
11:00～19:00
火曜定休

和座店
能美市大成町リ56
0761-55-3737
10:00～19:00
火曜定休

眠音

ねおん

Vol.47
Autumn

2018年9月1日発行　編集発行人／田中佳美　発行／(株)石田屋 〒921-8152 金沢市高尾3-4-1 ✆076-298-4800

本書の全部または一部を無断で複写することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。© Ishitaya Co.,Ltd.

http://www.ishitaya.com　Printed in Japan

定価300円 税別

ISHITAYA

www.ishitaya.com